

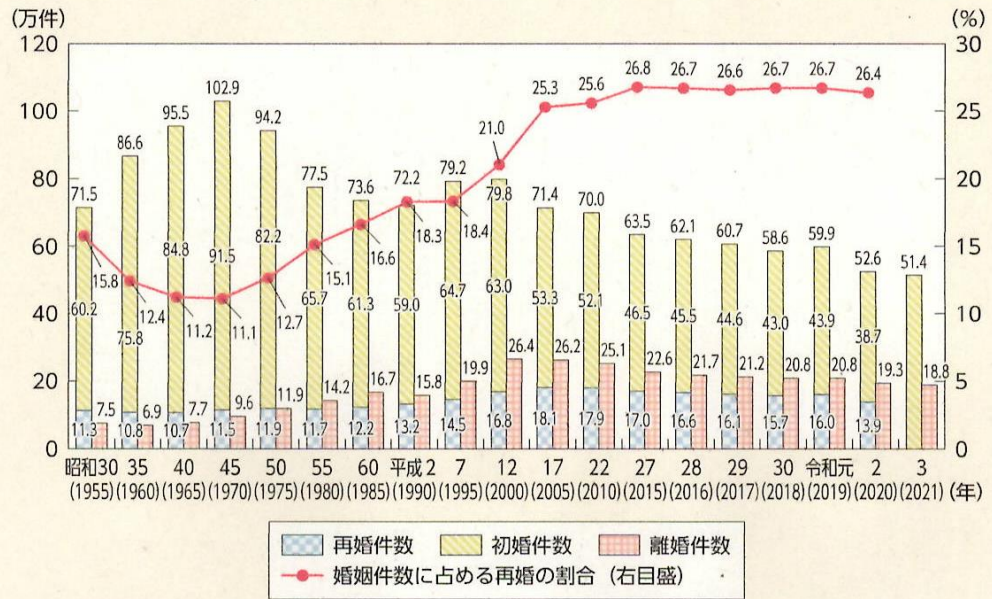
男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q93 人生100年時代における結婚と家族の姿の変化について教えて頂きたい。

A93 **1** 結婚と家族の現状

結婚・離婚・再婚件数の推移を見ると、第1次ベビーブーム世代³が20代前半の年齢を迎えた昭和45（1970）年は、婚姻件数は約100万件、離婚件数は約10万件だった。婚姻件数は、昭和47（1972）年にピーク⁴となった後は減少し、第2次ベビーブーム世代が25歳前後の年齢を迎えた平成7（1995）年～平成12（2000）年に再び一時的に増加⁵し、その後は減少傾向となり、近年（平成27（2015）年～令和元（2019）年）は、約60万件で推移していた。離婚件数は、戦後最も少なかった昭和36（1961）年⁶以降変動しつつ増加傾向をたどり、近年（平成27（2015）年～令和元（2019）年）は、約20万件と、婚姻件数の約3分の1で推移していた。コロナ下の令和2（2020）年以降は、婚姻件数は、令和2（2020）年52.6万件、令和3（2021）年51.4万件（速報値）⁷と、戦後最も少なくなり、離婚件数は、令和2（2020）年19.3万件、令和3（2021）年18.8万件（速報値）⁷となっている（特一1図）。

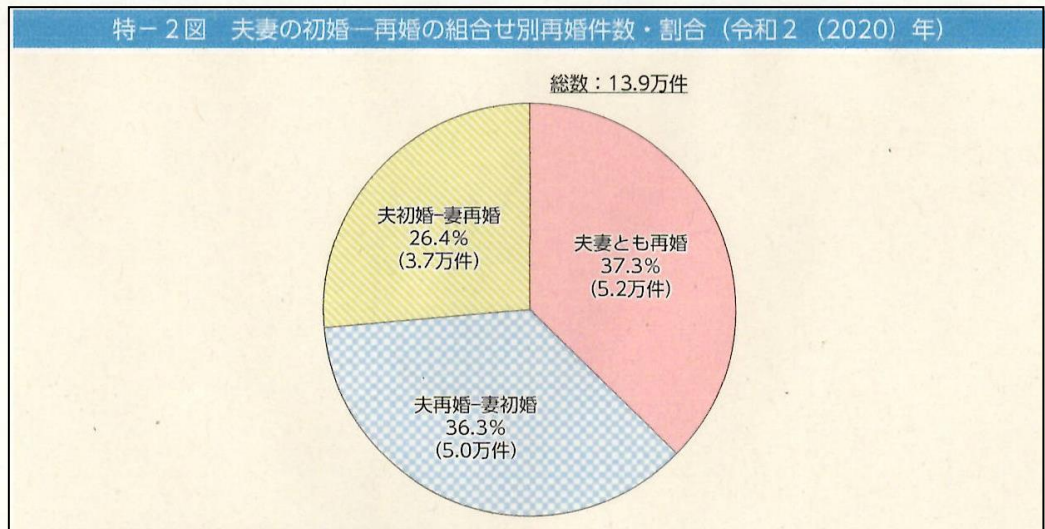
特-1図 婚姻・離婚・再婚件数の年次推移



- (備考) 1. 厚生労働省「人口動態統計」より作成。
2. 令和3(2021)年の数値は、日本における外国人等を含む速報値。令和3(2021)年の婚姻件数は、再婚件数と初婚件数の合計。
3. ベビーブームとは、赤ちゃんの出生が一時的に急増することをいう。日本では、第2次世界大戦後、2回のベビーブームがあった。第1次ベビーブームは昭和22(1947)年から昭和24(1949)年、第2次ベビーブームは昭和46(1971)年から昭和49(1974)年である。第1次ベビーブーム世代は「団塊の世代」、第2次ベビーブーム世代は「団塊ジュニア」と呼ばれている(内閣府「平成27年版少子化社会対策白書」)。
4. 昭和47(1972)年の婚姻件数は、109万9,984件(厚生労働省「人口動態統計」)。
5. 平成5(1993)年から平成13(2001)年は、おおむね79万件台で推移(厚生労働省「人口動態統計」)。
6. 昭和36(1961)年の離婚件数は、6万9,323件(厚生労働省「人口動態統計」)。
7. 令和3(2021)年の数値は、日本における外国人等を含む速報値。

全婚姻件数に占める再婚の割合

全婚姻件数に占める再婚件数の割合は1970年代以降増大傾向にあり、令和2（2020）年の再婚件数は13.9万件と、婚姻の約4件に1件が再婚となっている。再婚件数に占める夫妻の初婚—再婚の組み合わせ別割合を見てみると、令和2（2020）年は、夫再婚—妻再婚は5.2万件（37.3%）、夫再婚—妻初婚は5.0万件（36.3%）、夫初婚—妻再婚は3.7万件（26.4%）と「夫妻とも再婚」が最も多い（特—2図）。



（備考）厚生労働省「人口動態統計」より作成